

第2章 新宿駅西口地域地震防災訓練の概要

2.1 訓練の概要

2.1.1 訓練のコンセプト

総合防災訓練は、教育訓練プログラムで取り上げたテーマ（「災害医療と応急救護」、「建物被害確認と使用性判定」、「情報共有と伝達」および「災害対応体制」）について、参加者がセミナー・講習会で身につけた災害対応能力を活かし、事業所（ビル）や地域で災害対応活動を総合的に実践できるようにすることを目的としている。

表 1 が新宿駅西口地域における訓練実施概要である。訓練は、11 月 7 日（木）14 時に東京湾北部でマグニチュード 7.3 の地震が発生したことを想定し、工学院大学新宿キャンパスを主会場として 4 つの訓練項目（傷病者対応訓練、建物被害対応訓練、防災センター訓練、西口現地本部訓練）を並行して実施した。なお訓練には、新宿駅周辺防災対策協議会参加団体および関係事業所より 80 名、協議会活動に協力いただいている新宿区医師会より医療従事者 11 名の計 91 名が参加した。

図 1 に、訓練の対象と、人や情報の連関を表した概念図を示す。訓練では発災直後の場面と発災後数時間経過した場面を設定し、それぞれ訓練の前半と後半で場면을切り替え実施した。発災直後の場面では、主に 28 階建ての超高層テナントビルを想定した自衛消防隊による災害対応を実践する内容とし、発災後数時間が経過した場面では、超高層ビルに加え西口現地本部における情報集約伝達、仮想の緊急医療救護所における傷病者の受入れ対応およびそれらの連携を実践する内容とした。

表 1 新宿駅西口エリアにおける訓練実施概要

訓練名称	新宿駅西口地域地震防災訓練
日時	2013 年 11 月 7 日（木）13:00～17:30
主会場	工学院大学新宿キャンパス
参加者数	91 名（協議会員事業所 80 名、新宿区医師会 11 名）
訓練項目	・ 傷病者対応訓練（参加者 61 名、内新宿区医師会 11 名） ・ 建物被害対応訓練（参加者 12 名） ・ 防災センター訓練（参加者 11 名） ・ 西口現地本部訓練（参加者 7 名）
主催	新宿駅周辺防災対策協議会
主な参加協力団体	新宿駅周辺防災対策協議会参加団体及び関係事業所、新宿区医師会、東京医科大学病院、東京女子医科大学病院、慶應義塾大学病院、国立国際医療研究センター病院、日本赤十字社東京都支部、新宿消防署、新宿警察署、工学院大学、東京建築士会、新宿副都心エリア環境改善委員会、鱒沢工学研究所

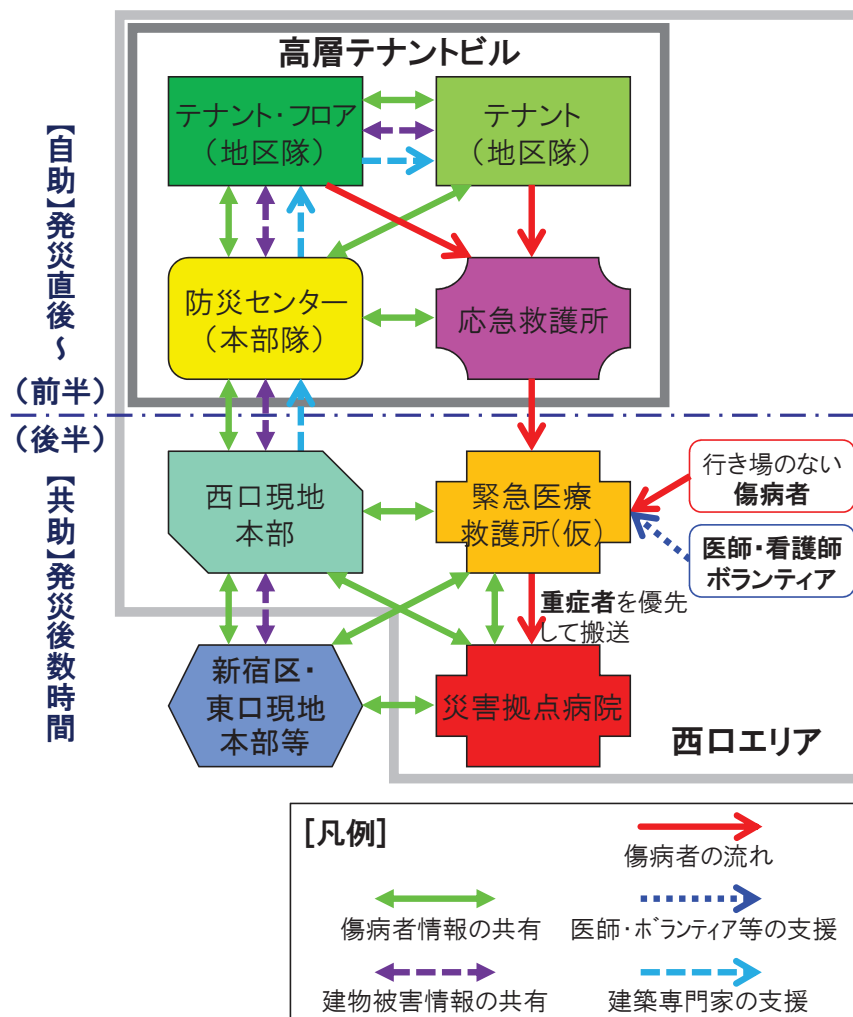


図 1 新宿駅西口エリアにおける訓練の概念図

2.2 訓練における組織編成

2.2.1 自衛消防隊の組織編成

図 2 が、超高層テナントビル内の訓練で設定した自衛消防隊の編成と人数構成である。自衛消防隊は、高層大規模建築物の防火・防災管理を行う組織として、消防法で設置が義務付けられている。訓練では、防災センターにビル全体の災害対応を統括する本部隊を組織し、その下でテナント（2 階と地下 1 階）ごとに災害対応を行う地区隊を組織した。各隊の編成は、セミナー参加事業所を対象に実施したアンケート調査結果を参考に、隊の指揮調整を行う隊長の下、情報連絡班、応急救護班および安全防護班を配置し、傷病者対応訓練は応急救護班、建物被害対応訓練は安全防護班、双方の訓練に係る情報集約伝達は情報連絡班がそれぞれ担当した。さらに、地区隊の情報連絡班には、フロア内の他のテナントの仮想情報も含めてフロア内の災害情報を集約し、本部隊へ伝達する役割を課した。なお、実際の自衛消防隊の組織編成には、火災に対応する初期消火班と避難時に対応する避難誘導班も配置することが多いが、訓練では火災は発生せず避難の必要がないシナリオを設定したため、それらの役割は省略した。

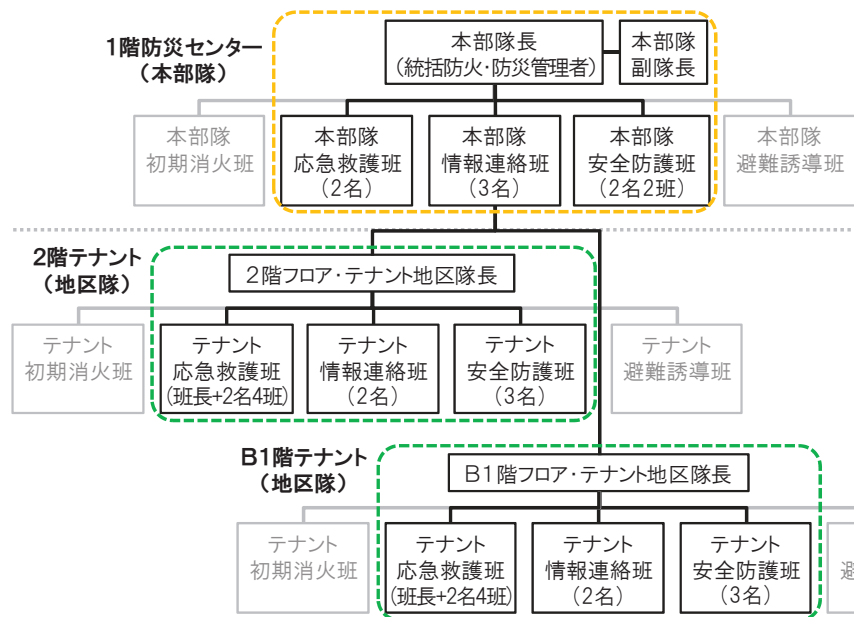


図 2 超高層テナントビルにおける自衛消防組織の編成（訓練における設定）

2.2.2 仮想緊急医療救護所の組織編成

図 3 が、傷病者対応訓練(後半)において設定した、仮想の緊急医療救護所における組織編成と人数構成である。緊急医療救護所のリーダーを医師会医師、サブリーダーを事業所勤務者が担当し、医療従事者による医療救護班、事業所勤務者によるボランティアで構成する応急救護班および情報連絡班を配置した。医療救護班は、医師会医師がリーダーを担当し、医師会医師・看護師・事務（または保健師）の3人で構成する医療救護班を3班配置した。さらに、訓練の途中から、災害拠点病院の医療救護班（救急専門医と看護師2名）が、医療救護班リーダーの指揮下に入り支援を行う設定とした。応急救護班は、協議会の応急救護講習会参加者を中心とする事業所勤務者で構成し、リーダーおよび2人1組の応急救護班を4班設定した。情報連絡班は、事業所勤務者がリーダーとサブリーダーを担当し、その指揮下に、事業所勤務者4名による情報集約担当、事業所勤務者2名による情報管理担当、および新宿区職員2名による防災無線担当を配置した。

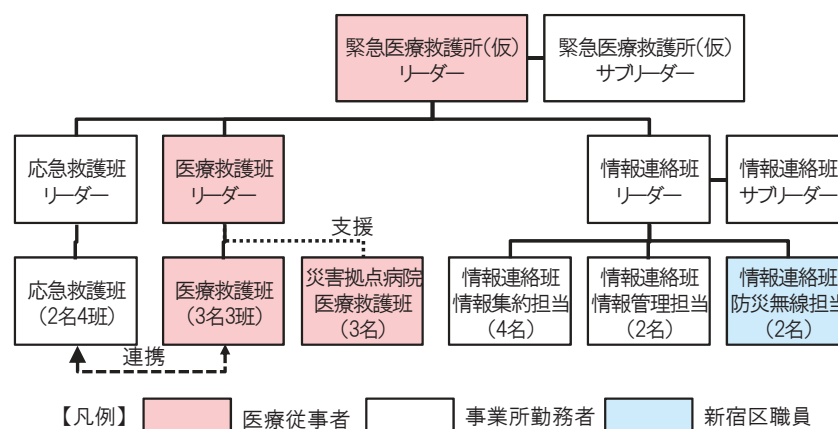


図 3 仮想緊急医療救護所における組織編成（訓練における設定）

2.2.3 西口現地本部の組織編成

図 4 が西口現地本部の組織編成である。本部長・副本部長の下、情報収集・発信担当、情報整理・集約担当、情報共有担当および帰宅困難対策班を配置した。本部長・副本部長はファシリテーター役となり、情報収集・発信担当は東口現地本部や高層ビルおよび仮想緊急医療救護所等との情報連絡、情報整理・集約担当は現地本部に報告された各種情報の整理、情報共有担当は整理・集約された情報の広域情報共有システムによる共有、帰宅困難者対策班は防災行政無線による区の災害対策本部等との情報連絡をそれぞれ担当した。また、帰宅困難者対策班は新宿区職員が担当し、それ以外の役割を新宿駅西口エリアの事業所勤務者が担当した。

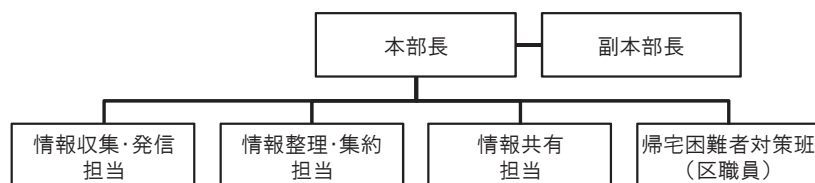


図 4 西口現地本部における組織編成

2.3 訓練会場のレイアウト

図 5～図 7 が、主な訓練会場のレイアウトおよび傷病者対応訓練における傷病者の搬送経路である。工学院大学新宿キャンパスの 1 階、2 階および地下 1 階を訓練会場として使用し、超高層ビルにおけるテナント企業を 2 階と地下 1 階にそれぞれ設定し、防災センターを 1 階に配置した。西口現地本部は 1 階に配置し、仮想の緊急医療救護所および災害拠点病院の事務も 1 階にそれぞれ配置した。また、訓練に使用しないフロアや、テナントの仮想の災害情報も作成し、防災センター訓練等で集約する情報として用いた。なお、ここで示した訓練会場のレイアウトは、実際の災害対応でのレイアウトではなく、あくまで訓練でのレイアウトであることを付け加えておく。

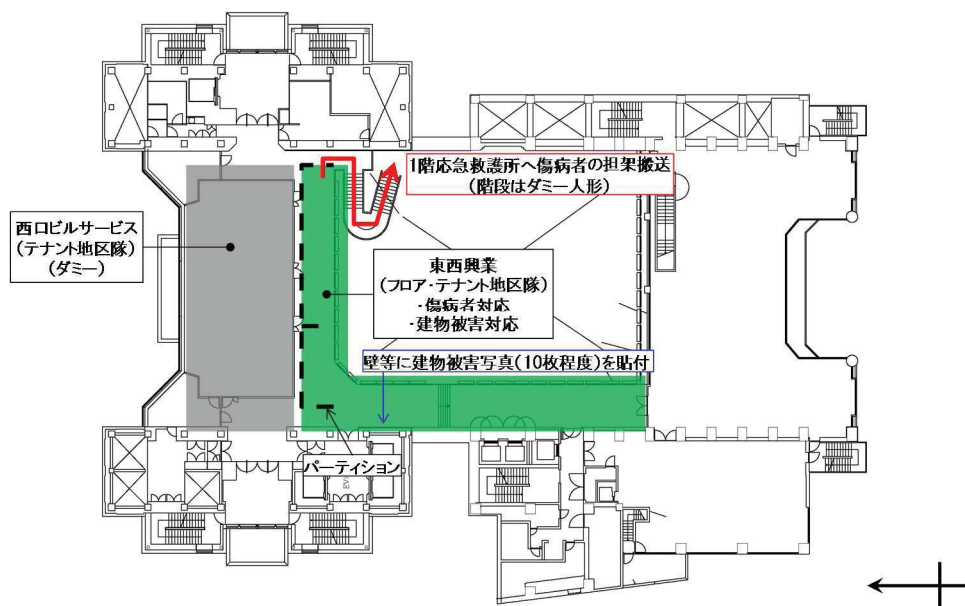


図 5 訓練会場（2階）のレイアウト

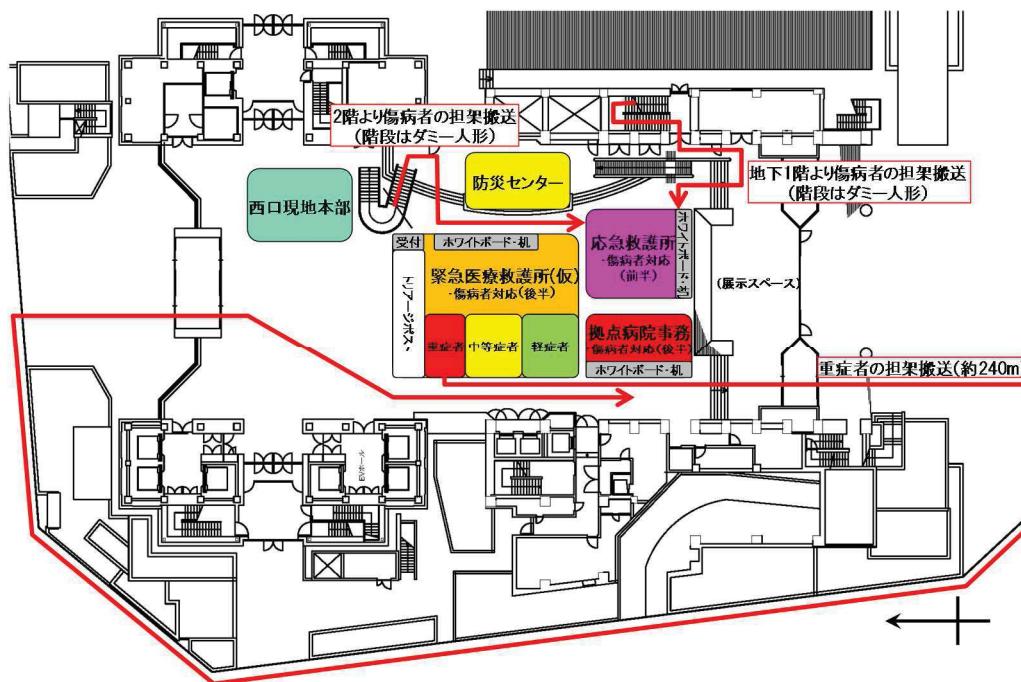


図 6 訓練会場（1階）のレイアウト

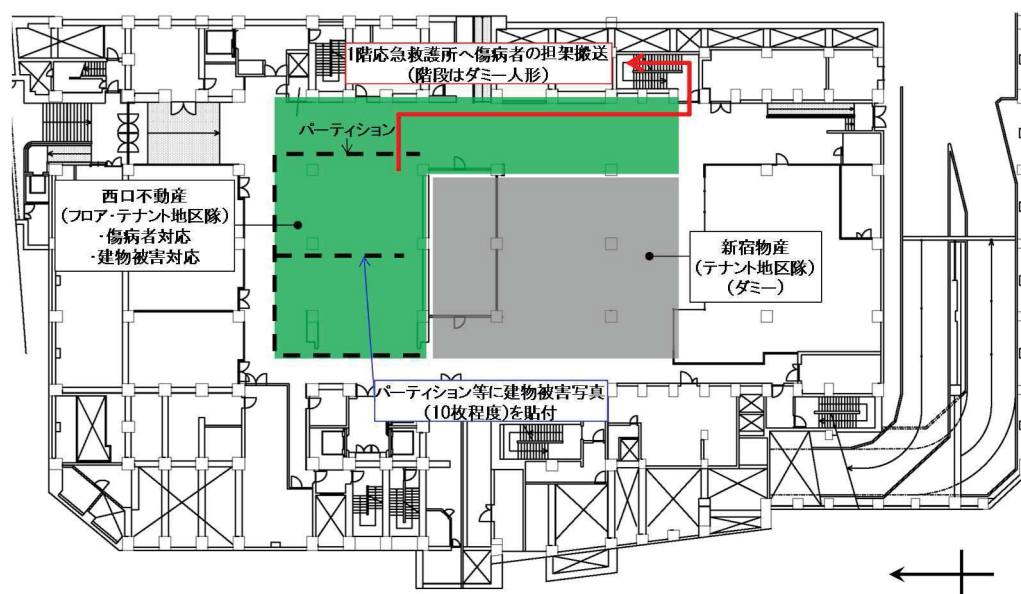


図 7 訓練会場（地下1階）のレイアウト

2.4 訓練の流れ

表 2 が訓練の流れである。まず 13:00 より訓練内容と役割の確認、傷病者役の参加者のムラージュと演技指導を行った後、それぞれの訓練会場に移動した。そして、14:00 に訓練を開始し、14:00 からの 1 時間を前半の訓練、15:15 からの 1 時間を後半の訓練とし、4 つの訓練を並行して実施した。訓練終了後、16:30 からは訓練講評、意見交換およびアンケート調査を行った。

表 2 新宿駅西口エリアにおける訓練の流れ

時間	傷病者対応訓練 (自助・共助)	建物被害対応訓練 (自助・共助)	防災センター訓練 (自助・共助)	西口現地本部訓練 (共助)
13:00	参加者集合	参加者集合	参加者集合	参加者集合
13:00～13:45	訓練内容・役割の確認 傷病者ムラージュ	訓練内容・役割の確認	訓練内容・役割の確認	訓練内容・役割の確認
13:45～14:00	訓練会場へ移動 (「東西興業」：2 階) (「西口不動産」：地下 1 階)	訓練会場へ移動 (「東西興業」：2 階) (「西口不動産」：地下 1 階)	訓練会場へ移動 (1 階アトリウム)	訓練会場へ移動 (1 階アトリウム)
14:00 (発災)	前半訓練開始 (ビル内での自助)	訓練開始 (ビル内での自助)	訓練開始 (自助)	訓練開始 (共助)
14:00～15:00 (訓練前半)	・テナント・フロアの地区隊を編成 ・地区隊長ブリーフィング ・傷病者の応急手当、観察記録、ビル内応急救護所への搬送・介助 (応急救護班) ・本部隊との情報連絡、傷病者情報の集約・伝達 (情報連絡班)	・テナント・フロアの地区隊を編成 ・地区隊長ブリーフィング ・チェックシート・iPad による建物被害確認・記録 (安全防護班) ・本部隊との情報連絡、建物被害情報の集約・伝達 (情報連絡班) ・集約情報を現地本部に報告 (本部隊)	・災害対策本部の設置・本部隊の編成 ・本部隊長ブリーフィング ・各地区隊の被害情報集約・現地本部への報告 (情報連絡班) ・応急救護所の設置、傷病者のチェックイン・集約 (応急救護班) ・被災モニタリング・罫書きの確認 (安全防護班)	・本部長ブリーフィング ・現地本部の開設 ・関係機関との通信・情報共有 (FWA 無線) ・Wi-Fi 環境接続訓練 ・帰宅困難者誘導訓練
15:00	前半訓練終了	前半終了	前半終了	前半終了
15:00～15:15	状況確認・調整	状況確認・調整	状況確認・調整	状況確認・調整
15:15	後半訓練開始 (仮想緊急医療救護所での共助)	訓練再開 (ビル内での自助→ 現地本部と連携した 共助)	訓練再開 (共助)	訓練再開 (共助)
15:15～16:15 (訓練後半)	・仮想緊急医療救護所の開設・組織編成 ・救護所リーダーブリーフィング ・トリアージ・診察 (医療救護班) ・応急手当・観察記録・仮想災害拠点病院への搬送 (応急救護班) ・情報集約・伝達・管理 (情報連絡班)	・地区隊長ブリーフィング ・本部隊による建物被害調査 (安全防護班) ・地区隊の調査協力 ・本部隊長による建物の即時使用性判定、地区隊・現地本部に報告 ・建築専門家による確認・助言	・本部隊長ブリーフィング ・仮想緊急医療救護所へ運んだ傷病者の追跡確認 (応急救護班) ・建物被害調査 (安全防護班) ・被害調査に基づく建物の即時使用性判定 ・現地本部への報告・情報共有	・本部長ブリーフィング ・地域の災害情報集約・伝達 ・仮想災害拠点病院との情報連絡 ・仮想緊急医療救護所への重症者受入れ先の情報提供 ・建築専門家の派遣
16:15	後半訓練終了			
16:15～16:30	講評会場へ移動			
16:30～17:30 (講評会)	訓練の講評・意見交換 アンケート調査			
17:30	訓練終了・解散			